

## 会 議 録

会 議 名	令和5年度第1回目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会
日 時	令和5年8月3日（木）午後6時30分～午後7時40分
場 所	目黒区総合庁舎地下1階 入札控室
出 席 者	<p><b>【委員】</b>  田中委員長（子育て支援部長）、樫本副委員長（教育次長）、大竹委員、小泉委員、瀬沼委員、渡邊委員、平野委員、加藤委員、大橋委員、星野委員、清勢委員</p> <p><b>【事務局】</b>  子育て支援部放課後子ども対策課長、子育て支援部子育て支援課長、教育委員会事務局生涯学習課長</p>
傍 聴 者	なし
配 布 資 料	次第 座席表 資料1 目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会委員名簿 資料2 目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱 資料3 会議の公開等の取扱いについて（案） 資料4 区における放課後子ども総合プランの概要 資料5 令和5年度小学校内学童保育クラブの入所状況 資料6 令和4年度ランランひろばの実施結果について 資料7 令和4年度子ども教室の実施結果について 資料8 放課後子ども総合プラン運営協議会・運営連絡会の開催結果について 資料9 令和4年度第1回目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会において出た意見・課題に対する取組 資料10 ランランひろばの拡充による臨時的な対応について
会 議 次 第	1 開会 2 委員紹介 3 議題 （1） 会議の運営について （2） 区における放課後子ども総合プランの概要について （3） 令和5年度小学校内学童保育クラブの入所状況について （4） 令和4年度ランランひろばの実施結果について （5） 令和4年度子ども教室の実施結果について （6） 放課後子ども総合プラン運営協議会・運営連絡会の開催結果について （7） 令和4年度第1回目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会において出た意見・課題に対する取組について （8） ランランひろばの拡充による臨時的な対応について

	<p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
<p>会議の結果 及び 主な発言</p>	<p>1 開会</p> <p>2 委員紹介</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 会議の運営について 資料3により事務局（放課後子ども対策課長）から、会議の運営や公開等の取扱いについて説明した。委員から異議はなく、案のとおり決定した。</p> <p>(2) 区における放課後子ども総合プランの概要について 資料4により事務局（放課後子ども対策課長）から、区における放課後子ども総合プランの概要について説明した。</p> <p>(3) 令和5年度小学校内学童保育クラブの入所状況について 資料5により事務局（子育て支援課長）から、令和5年度小学校内学童保育クラブの入所状況について説明した。 (委員) 待機している子どもたちはどうしているのか。 (事務局) 待機児童は概ね人数でいうと、3分の2以上が小学校3年生以上という状況である。現在、区の学童保育クラブ6年生まで対象としている。習い事やランランひろばに登録して過ごしたり、児童館のランドセル来館に登録して、放課後、直接児童館に来館するというような形でそれぞれ過ごしている状況である。</p> <p>(4) 令和4年度ランランひろばの実施結果について 資料6により事務局（放課後子ども対策課長）から、令和4年度ランランひろばの実施結果について説明した。 (委員) 日数がバラバラなのは、教室がなくて中止になったりすると実施できないので、少ないということか。 (事務局) もともと基本的には校庭と体育館を使わせていただいて、それができないときには特別教室という運用をしている。校庭が暑くて使えないとか雨で使えなくなる、それから体育館が学校行事等で使用できない、また、そのほかの教室も使用できず、活動場所がなくなってしまった時には中止となるので、そういったことで実施日数が違ってくるといった状況である。 (委員) (中止になることは) 当日、前日に分かるのか。 (事務局) なるべく事前にわかるものについては、毎月発行しているランランひろ</p>

ばだよりでお知らせしているが、どうしてもやむを得ず、急きょ、当日中止になるという場合もあり、その場合には保護者連絡システム（安心でんしょばと）でお知らせしている。

(委員) 保護者は、今日一日預かっただけののかなと思っているのに、急に、場所がないから帰らせます、という連絡が入るというのもどうなのか。

(事務局) やはり（実施場所が学校なので）教育活動が最優先ということになる。その中でも学校には協力をお願いし、活動場所を確保しているが、活動場所が確保できない、校庭しか残ってないというときに雨で中止という場合が確かにあるので、やり方は引き続き検討が必要だと考えている。

(委員) 当初、ランランひろばをつくるというか実施するにあたり、どんな子どもたちが来るのか想定していたのか、実際にどういう子ども達が利用しているのか。例えば、先ほどおっしゃられた待機児童が使っていることが多いのか、普通にちょっと遊びに行きたいから遊んでいる子どもが多いのか、データをとっていれば教えていただきたい。

(事務局) 当初の想定だが、ランランひろばの事業は登録すればすべてのお子さんに使っただけという意味で、特に誰を対象というような区別はしていない。利用の実態は、学童保育クラブの待機児童もいれば、純粋に遊びに来る子どももいる。みなさんに開放しているので、状況は様々である。

(委員長) もともと全児童対策ということで、国のほうで保育が必要な方だけではなくて、すべての子どもたちの放課後の居場所をつくっていこうという方向性で考えている。多くのお子さんの多様な居場所の一つとして、学校の中で、快適に安全に過ごせる場所として整備しているということである。毎日来なくても登録は増えていくことによって、いつでも来られるというところができればいいと考えている。また、学校の教育活動の場所であるため、急に予定が入ったりすると使えない場合もあるが、なるべく、そういった急な休みなどがないように、毎年、学校と区、事業者も含めて相談をしながら、できるだけ多くの日数をランランひろばの活動場所としてご提供いただけるように調整をしているので、ご理解いただければと思う。

(委員) 不動小学校でいえば、学童保育クラブに120人在籍し、さらに待機児童がいるという状況であり、非常に放課後の居場所という意味ではニーズは高いなというふうに感じている。今、児童数が増えている関係で、普通教室が毎年増えている状況である。そのため、ランランひろばで使える場所がなかなか固定できず、サブルームを使う際に、毎日、違う場所を使うような形になっており、そこだけ非常に申し訳ないなという思いはしている。非常にニーズが高い活動なので、ぜひ子どもたちのためにも続けていただければなというふうには思っている。

(委員長) 区も、今、委員がおっしゃったような視点でやりたいと思っているし、学校側も、非常に生徒数が増えている中で努力をされているということで、そのことは十分理解している。その中で今、できるだけ工夫をして

いるというところであるのでご理解いただければと思う。

**(5) 令和4年度子ども教室の実施結果について**

資料7により事務局（生涯学習課長）から、令和4年度子ども教室の実施結果について説明した。

（委員長）今年度の状況はどうか。

（事務局）回数的にはコロナ前に戻ってきている状況である。今年度はもうコロナの影響はほぼないのかなというような一方で、運営している団体の話を伺うと、どこも後任の担い手が不足気味なのかなというところで、この辺りは子ども教室の推進会議でも課題認識として持っているところである。

（委員）下目黒小学校では（子ども教室は）土曜日に運営している。地域子ども教室ができたときの趣旨としては、土曜日や日曜日の子どもの居場所づくりということで始まったので、先行して始めた所は、基本的に土曜日か日曜日しかやっていない。ランランひろばとうまくクロスして、放課後に活動している子ども教室はすごいと思う。うちはスタッフの構成からも、放課後まではとても面倒を見きれない。講座があつて学童組が申し込んだときだけは来てもらっているが、それ以外、交流はほとんどない。

（委員長）先駆的な取り組みということで、土曜日の活動居場所づくりに地域の方々にご協力いただいております、感謝申し上げます。

**(6) 放課後子ども総合プラン運営協議会・運営連絡会の開催結果について**

資料8により事務局（放課後子ども対策課長）から、放課後子ども総合プラン運営協議会・運営連絡会の開催結果について説明した。

（委員長）去年と比べて今年度で活動場所が、学校との調整がついて増えた事例はあるのか。

（事務局）中目黒小学校についてはワールドルームとホールを今年度から使用させていただいている。また、原町小学校についてはパソコンルーム、オープンルームを使用させていただけることになった。

**(7) 令和4年度第1回目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会において出た意見・課題に対する取組について**

資料9により事務局（放課後子ども対策課長）から、令和4年度第1回目黒区放課後子ども総合プラン運営委員会において出た意見・課題に対する取組について説明した。

（委員）ランランひろばの活動場所の調整について昨年度の意見があつて、ランドセルひろばのときでも副校長の負担が大きかったが、学童保育クラブやランランひろばが学校内にできて、むしろ負担が増えているように思うという意見があつたので、実際はどうかかと思い、この会議に出る前に副校長に話を聞いた。副校長は、ランランひろば実施校の方が、ランドセルひろば実施

校よりはるかに楽だと言っていた。ランドセルひろばではスタッフにいろいろと頼られていたが、ランランひろばは、活動場所の調整はあるが、運営についてはほとんどお任せできてるので楽であるということである。活動場所調整についてはその日の予定がはっきりしているので、副校長がいないときは副校長補佐が対応するような形でやっている。

(委員) 学校によって事情が違うと思うが、私はランランひろば実施校の時には副校長経験がなく、ランドセルひろば実施校で副校長だった。ランランひろば経験は現任校からだが、副校長は全く変わらないと言っている。何が変わらないかという、毎日、今日は実施できますかというのを訊きに来る、予定表はもう以前に出しているのになぜ訊きに来るのか、時間は短い、いろんな対応している中では非常に厳しいと言っている。予定表を出している、訊きに来ることはしないでいただけたらと思う。また、校庭のコンディションについても、見ればわかるか、もしくは副校長でなくても、教員であればグラウンドが使えるか使えないかわかると思うので、教員の誰にでもいいので、ちょっと微妙な校庭のコンディションだけど使えるかどうかということを訊いてもらいたいのではないと思う。

(委員) 不動小学校に関しては、基本的に、低学年が早く下校したときだけサブルームを使わせていただく、それ以外の時は、校庭と体育館両方使わせていただけることが多い。低学年が待機する時間についても、月曜日はこの部屋、火曜日はこの部屋と今年度は指定していただいているので、調整するのが子ども教室だけになってきている。副校長先生がいらっしゃらなくても、こちらのお伝えしたいことは副校長補佐の方にお伝えすることも可能なので、毎日訊きに行くことがない。教室を授業で使っているときには訊きに行くと、他の教室を貸していただいているので、その点では、本当にやりやすくやらせていただいていると思っている。

(事務局) 各学校に伺っていると、それぞれによって事情や、校長先生、副校長先生のお考えも様々というところがある。また、主な関係者としては、校長、副校長、施設長、主任、コーディネーターと概ね5名おり、年度が変わると誰かは人事異動で変わると考えている。日々の調整の必要がないということであれば、年度当初にルールをまず確認させていただいて、基本的には一旦固めたルールで日々確認をすることなく、安定的に運営できるように運用変更していきたいと考えている。

(委員長) 学校の事業者や人によって違うのだと思う。今日伺った意見は、区で学校に確認させていただいた上で調整させていただきたいと思う。他の学校で、もしそういったことがあれば、ぜひ事務局（子育て支援部）か、直接、事業者にお話いただいても結構なので、よろしく願います。

(委員) そういう議論を伺った上で、資料に施設管理業務の民間委託化とある

が、民間委託すると、そういう課題というのは解消されてくるということなのか。

(事務局) 複合化すると、学校という建物の中に住区センターとか様々な施設が入ってくるので、その管理を全部学校にやらせることはない。建物全体については民間の事業者が管理を請負うということになる。ただ単に施設管理の負担を民間に移すだけでは、民間へ負担が移るだけである。そうではなくて効率的に施設を管理するとか、そういった面でも民間に考えていただくと考えている。

(副委員長) 補足させていただくが、今、学校の建替えを進めているが、過去の建替えにおいては、設備管理については委託、あと学校用務は従前からの直営でやっている。それを今後、建替えにあたってどうするかは、またこれからの検討になると思う。

#### (8) ランランひろばの拡充による臨時的な対応について

資料10により事務局(放課後子ども対策課長)から、ランランひろばの拡充による臨時的な対応について説明した。

(委員) ひろばの拡充ということはわかったが、根本的なところで、学童保育クラブは単なる居場所だけではなくて生活がベースになってくるので、そことランランひろばというところがごっちゃになると、その学童保育クラブの目的は何かというところは押さえておかなければいけないのではないか。

(事務局) 委員がおっしゃるとおりで、学童クラブは、単に子どもをお預かりするというだけではなくて、一人ひとりのお子さんの状況をよく見ながら、また補食という形でおやつを出していたりとか、そういった生活の場でもあるし、保護者の方と連携を取りながらであるが、学校の宿題も一部の学童保育クラブで見ているというような状況もあるので、そういった生活の場でもあるということはきちっと押さえた上で運営していきたいと考えている。

(委員長) これ以外に、総括的に本日の議題に対してご意見ご質問等をいただければと思うが。

(委員) 緑ヶ丘小学校にランランひろばができない理由は何か。

(事務局) まず、ランランひろばの事業は小学校内に学童保育クラブを整備し、学童保育クラブの事業者にランランひろばの事業も委託している。緑ヶ丘小学校が来年度、22校中1校だけ残っている理由は、場所の確保の点で、現時点で小学校内学童保育クラブの整備の目途が立っておらず、ランランひろばの整備の目途も立っていないという状況である。どういった方法であれば実現できるかということは、現在、検討している状況である。

(委員) これはお願いだが、ランランひろばを導入する学校との調整についてだ

が、学校にはいろいろな団体関わっているのです、そこの方への丁寧な説明と確認をしていただきたい。

(委員長) やはり一番重要なのは行政でこういったことだけをやるということではなくて、学校や地域の方々など様々な方々がいらっしゃるからこそ、その中で子育て、子どもが育っていく環境が一番すばらしい環境だと思っている。そういうまちづくりを目黒区は目指しているのです、そういった視点で、しっかりと丁寧な説明もしていきたい。先日、議会報告で、学校施設の使用料の話の中で、学校開放や目的外使用も含めて、その辺りを今後どういう取扱いをしていくか示させていただいた。学校は教育施設ということを最優先でとらえると同時に、次に子どもの施設で子どもの居場所ということも含めて、そういった考え方のもとで、今後、取り組みを進めていくということを示している。しっかりと区の方からご説明をさせていただきながら、一番適切な活用、学校の施設の子どもの居場所もそうであるし、学校開放だとか地域の活動も行っていけるような形でこれから進めていくので、ぜひご協力、ご理解のほどをよろしくお願ひしたい。

(委員) 以前ランドセルひろばで活動していたが、年月が経ってしまったので、学校にお伺ひして、先生方やランランひろばと交流しながらやっていきたいなと思う。昨年の12月に小学校内学童から依頼があり、手芸をした。20名ぐらいのお子さんがとても喜んでくださって、また何かそういう機会があったらさせていただきたいなと思う。

#### 4 その他

(事務局) 本日いただいたご意見、また各小学校区の運営協議会でいただいたご意見について、あらためて今後庁内で検討を進めいく。こうした庁内の取組みについては、従来、放課後子ども総合プラン実施検討委員会という内部の組織で検討を行ってきた。平成30年以来の放課後子ども総合プランを施行した時の検討の組織を続けてきたが、本日ご説明したように、各小学校区で正式に運営協議会の活動があり、本委員会も開催される中で役割の整理が必要となっている状況である。庁内の会議であるので、あり方そのものについても庁内で検討していくが、方向性がまとまったら、あらためて本委員会でご意見を伺う。

#### 5 閉会

以 上